

小学六年

国語

解答と解説

2
問一
イ
37
問二
一
目
散
38
問三
エ
39
問四
1
イ
2
40
オ
3
41
エ
42

問五
エ
30
問六
⑤
エ
31
⑩
イ
32
問七
ア
33
問八
イ
34
問九
ウ
35
問十
ウ
36

問四			
の	ち	そ	自
道	を	れ	分
具	整	に	の
。	理	と	身
	し	も	の
	、	な	回
	す	い	り
	っ	生	で
	き	じ	起
	り	た	き
	さ	自	た
	せ	分	出
	る	の	来
	た	気	事
	め	持	や
26	27	28	29

1
問一
i
ウ
21
ii
ア
22
iii
オ
23
問二
イ
24
問三
ウ
25

(配点)

- { ①〔問一〕各2点、〔問四〕7点、〔問六〕各3点、他各5点 }
 { ②〔問四〕各2点、他各5点 } 計150点
 { ③④⑤各2点 }

	5	4	3		
⑥	①	①	①	問十	問五
領域	均等	オ	音	第	ア
65	60	55	50	三	43
⑦	②	②	②	の	問六
骨折	策略	ウ	雲	理	ど
66	61	56	51	由	ん
⑧	③	③	③	問十一	な
謝罪	洗練	イ	方	工	心
67	62	57	52	48	の
⑨	④	④	④	49	問七
損	尊敬	ア	成	ウ	44
68	63	58	53	問八	45
⑩	⑤	⑤	⑤	仲	問九
従	買収	工	進	間	46
69	64	59	54	問九	工
					47

【解説】

1 森谷明子の「南風吹く」(光文社) から出題しました。

俳句甲子園を目指す高校生の航太が、メンバーに幼馴染の恵一を加えるために恵一の自宅まで勧誘にやってきた場面です。

問一 A2 関係づけ 知識

- i 航太が恵一のことを考えている場面です。恵一は航太では作れないような表現を航太から見ればいとも簡単に思いついています。「簡単に」という意味の「やすやす」が入ります。
- ii 恵一に対する嫉妬で頬をふくらませて黙り込んだ航太ですが、落ち着いて考えると恵一に怒っても仕方がないことに気づいています。「よく考えたら」という意味になるように「よくよく」を入れましょう。
- iii この場面で恵一も言っているように、航太は知らなかったようですが恵一は俳句甲子園を何度も見て自分なりに研究していることが分かります。「何度も」「いやというほど」という意味の「さんざん」が入ります。

問二 B1 理由 比較

この時点で具体的な内容には気づいていませんが、——線①直後にあるように、航太は何か「まずいこと」があったのだらうと察しています。恵一は進路をめぐって不仲になっている父親と肩をぶつけるように無言のまますれ違った直後であり、また同じ場に母親がいることも考えると、この状況で幼馴染の航太がいるとはいえ、父のいる家の中で航太と親し気にふるまう気になれなかったのです。したがってイが正解となります。ア「いつも通りに会話する様子」、ウ「意地でも普段通りにふるま

うまい」、エ「早く帰ってほしい」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 理由 比較

「ひったくった」という行動やその後の発言から、恵一が写真の裏に書いた俳句を航太に見られたくないと思っていることが読み取れます。あくまで写真そのものではなく俳句がポイントになっていることをおさえましょう。ア「出来が良くないため誰にも見せるつもりがなかった」、イ「からかわれたのが許せなかった」、エ「家族で仲良く過ごしている様子」がそれぞれ誤っています。

問四 B2 具体・抽象 推論

——線③直前で、恵一は俳句を「気持ちをしつきりさせる道具」だと表現しています。この部分を軸に解答を考えましょう。恵一が句を作ることによつてしつきりさせたい気持ちは、自分の身の回りの出来事によつて生じていることから、それらの出来事や出来事によつて生じる気持ちを整理し、しつきりさせるための道具、というまとめ方をするのが良いでしょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問五 B1 具体・抽象 比較

「頬をふくらませ」という行動は、「不満・怒り」の表れです。ただし、強い怒りを表明するというよりは親しい間柄の人に対して少し不満げな様子を見せたり、親しいがゆえにすねた

りする時によく使われる表現です。i のふくまれる段落に、恵一に対していただいている嫉妬が航太の心の声として描かれています。ここを参考にすると、エが正解となります。ア「わくわくする気持ち」、イ「投げやりになる気持ち」、ウ「仲間に加わろうとしない恵一に腹を立てる」がそれぞれ誤っています。

問六

A2 知識 関係づけ

⑤ 「御託を並べる」とは、「自分に都合の良いことや言い訳を延々と述べる」という意味です。「御託を並べるのはもういから早く宿題をやりなさい」というように使われます。

⑩ 多くの場合、「する」をともなつて「無下にする」の形で「雑な対応をする」という意味を表します。「無下にできない」の形では、「ふだんお世話になっていたり、借りがあつたりして」「申し出や依頼を断れない」「反対意見を言いつらい」という意味になります。

問七

B1 具体・抽象 比較

直前の場面で航太は恵一に「できないことをやれつて言ってるんじゃない、お前ならできるから力を貸してくれつて頼んでるんだ」と言っています。ここから考えると、航太の考える「意固地」とは、恵一が仲間に加わろうとしないことを指していると考えられます。したがってアが正解となります。イ「航太たちを見下している」、ウ「俳句甲子園自体の価値をかたくなに認めようとしない」、エ「俳句甲子園がどういう大会なのかを知ろうとはしていない」がそれぞれ誤っています。

問八

B1 具体・抽象 比較

問七とは反対に、恵一の立場から航太の「意固地」なところをとらえる問題です。恵一が「おれを巻き込むな」と言っているのにもかかわらず、航太はしつこく「仲間に入れ」と言い続けています。その時に航太の発した「意固地」をそっくりそのまま言い返したのがこの場面です。したがってイが正解となります。ア「見えずいたうそ」、ウ「俳句に興味のない恵一」、エ「自分に相談もせず」がそれぞれ誤っています。

問九

A2 関係づけ 知識

⑧ をふくむ一文は「そんな評価のどこに⑧があるつて言うんだ?」となつています。「そんな評価」とは、直前の「作者でもない奴らが言いたいことを言い合う」「時には同じ句に六点つける俳人と九点つける俳人がいる」を指しています。また、恵一は——線⑦——三行後で「おれの俳句はおれだけのものだ」と言っていることから、誰が見ても納得できるような審査なんて不可能だと考えていることが読み取れます。以上のことから、ウの「客観性」が正解となります。

問十

B1 具体・抽象 比較

「新しい」とあることから、何に対して「新しい」のかを考えます。この前の場面で恵一は「おれの俳句に他人が勝手な解釈をするなんて、願い下げだ」と発言しており、航太はそれに「自分の俳句に他人が勝手な解釈をするな、か」と応じています。以上のことから、恵一の言う「自分の俳句に対する自分の解釈」以外の解釈が「新しい鑑賞」の中身であると考えられます。したがって、ウが正解となります。

② 長谷川眞理子の「世界は美しく不思議に満ちている――

「共感」から考えるヒトの進化」(青土社) から出題しました。他の動物とちがって人間だけが持つ「心」の存在について、「メンタライジング」「心を読み合う」「協力」などをキーワードに説明した文章です。

問一 B1 具体・抽象 比較

――線①直後に挙げられた例から考えると、「人間以外のもの(動物・無生物)の動きについて、「心」があると想定してその動きについて考えること」が「メンタライジング」であると言えます。したがって、ねこの行動(食事に見向きもしない)について「心」を想定しているわけではないイがふさわしくないとと言えます。ア・ウ・エはどれもパソコン・鳥・部屋に「心」があると想定した表現になっています。

問二 A2 知識 関係づけ

――三字熟語という限定を外せば、ここには「わき目もふらずに」「生懸命に」などの表現が入りそうだと予想できるでしょう。この意味になるのは「一目散」という三字熟語です。

問三 B1 理由 比較

――人間の脳が大きくなった理由は、――線③をふくむ段落の一つ前の段落で指摘されています。人間らしさを生み出す複雑な「心」を担うために、人間の脳は体重の二パーセントにも達しているのです。また、その際大きな役割を果たす前頭前野が脳全体に占める割合も、チンパンジーを大きく上回っています。また、「心」が必要となった状況は――線③以降に示されています。

ます。以上のことから、エが正解となります。ア「あらゆる手段を考えた」、イ「熱帯雨林にもどろうと知恵をしぼった」、ウ「少しでも多く食べ物を手に入れようと競争し合った」がそれぞれ誤っています。

問四 A2 知識 関係づけ

――接続語を選ぶ問題です。前後のどの部分がどのような形で接続されているかをていねいにおさえますよう。

1 直前には「人類の祖先は、大きな集団を形成し、互いに協力して狩猟や採集などで食料を確保する必要にせまられた」とあり、直後には「この状況で互いに『心』を共有し、協力することができなかった個体は滅び、協力がうまくできた個体の子孫が現在の人類に進化していった」という内容が続いています。前の内容をまとめ、言いかえた内容が後に来ていることから、イ「つまり」が当てはまります。

2 直前には「他者を助けてあげたいという『心』は、生後かなり早い時期の赤ちゃんからある」という内容があり、直後に「生後六ヶ月や一〇ヶ月の赤ちゃん」が、「山に登ろうとする図形を助けるキャラクター」の方を好むという話が続いています。前の抽象的な内容に関する具体例が直後に挙げられていることから、オ「たとえば」が入ります。

3 「自分勝手な行動もできないことはない」という直前の内容と比べると、直後の「見つかるとみんなに怒られる」は反対の内容と言えるでしょう。前の内容と後の内容が反対になっていることから、エ「でも」が入ります。

問五 B1 具体・抽象 比較

「軍拡競争」とは、様々な国家が他の国より軍事的に優位に立とうとして軍備を拡大することを指す言葉です。ここでは、「心」を読むという生存に適した能力がどんどん強まっていく様子を指しています。したがってアが正解となります。イ「お互いに神経をとがらせる」、ウ「うまくごまかそうとする」、エ「似通ってしまう」がそれぞれ誤っています。

問六

B1 関係つけ 具体・抽象

「メタ認知」という表現はすでに第三段落で出てきています。第三段落を確認すると、それは「自分がどんな心の状態のときにどのように行動するか、ということ自体を、自分で認識しているということ」と説明されています。これをふまえ、空らん前後の内容とつながるように書きぬきましょう。

問七

B1 具体・抽象 比較

「正義」や「公正」といった道徳感情」についての説明は、線⑥の次の段落にまとめられています。単語単位で同じものに飛びつくのではなく、選択肢全体が本文の内容と合っているかどうかで正誤の判断をしましょう。ア「人間同士が『協力』しようとする」とは正反対、イ「自分だけ得しようとする者を決して許さない」、エ「対立を避ける」がそれぞれ誤っています。

問八

B1 関係つけ

字数指定のある書きぬき問題では、字数を必要以上に重視するのではなく、まずは文脈から空らんに入りそうな内容を想定し、それに合う内容を字数条件等も合わせてしぼりこむように

していきましよう。⑦をふくむ一文は、「このことは、人間は何らかの集団に属し、そこで⑦と認められなければ生きていけないことを意味します」となっています。字数条件をいったん置いて考えると、「メンバー」「集団の一員」などが入ることが分かります。そのような意味を持ち、一字という条件に当てはまるのは⑦の八行後に出てくる「仲間」です。

問九

A2 知識 関係つけ

同じ段落の「協力関係にあることの記憶や、一緒に何かを成し遂げた経験をもって、協力した『他人』に共感し、彼らとの関係を『血縁者』や『家族』同然のものと感じられる」と意味の似ている「同じ釜の飯を食った仲間」が正解となります。それぞれたようなことわざですが意味が異なっていますので、混同しないように注意しましょう。

問十

B1 関係つけ

ぬけている文をもともどす問題です。いきなりどこにもどるかを本文中に探しに行くのではなく、まずはぬけている文そのものから、前後にどのような内容がありそうかということについて情報をつかんでおきましょう。「これも」という表現から、この文がもどる場所の前に「人間にはできて他の動物にはできないこと」の一つ目がかかれていことが分かります。そのような内容を述べているのは、最後から二つ目の段落です。

問十一

B1 具体・抽象 比較

本文の内容と合うものを選ぶ問題です。このような問題を解く際には、選択肢と本文のどの部分に対応しているのかをつか

み、必ず本文内容と照らし合わせながら正誤を判断しましょう。
ア「あえて認識しないようにしている」、イ「体重の二十パーセント以上」、ウ「自分勝手な行動を取ることには許されない」がそれぞれ誤っています。